

第1回宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会 議事録

期 日 平成30年6月20日（水）
時 間 午後3時00分～午後3時50分
会 場 宮古商業高等学校 会議室

1 開 会 （宮古商業高校副校長 鈴木卓）

2 岩手県教育委員会あいさつ （学校調整課首席指導主事兼総括課長 佐藤有）

- ・平成28年度3月に策定した「新たな県立高等学校再編計画」において、平成32年度に宮古地区で宮古工業高等学校と宮古商業高等学校の統合を示していたが、実際の統合時期等については地方創生の取り組みの推移や平成30年度までの入学者の状況等の検証を行い、検討することとしていた。
- ・今般、統合該当校の入学者の欠員が大きく、今後、さらに宮古地区における中学校卒業予定者の減少が見込まれること、統合により教育環境の整備が見込まれること、統合により教育環境をより良くしていきたいという地域の理解が得られていること等から計画通り統合を進めることとした。
- ・統合の際には、各学科の特色を生かし既存の施設・設備を有効活用するために、校舎制を採用したいと考えている。
- ・統合及び校舎制の導入については、これまで両校の教職員による検討ワーキンググループを立ち上げ、統合及び校舎制の諸課題について両校で議論を重ねてきた。
- ・東日本大震災津波で宮古工業高等学校が浸水被害のあった際には、宮古商業高等学校と一緒に学んだ経緯もある。
- ・統合検討委員会では、各校の歴史や伝統を踏まえて建設的な議論をお願いしたい。

3 委員の委嘱及び紹介 （学校調整課高校改革課長 藤澤良志）

- ・委員の紹介

4 委員長及び副委員長の選出 （宮古商業高校副校長 鈴木卓）

- ・委員長 宮古商業高校校長 高橋正浩
- ・副委員長 宮古工業高校校長 小原貴人

5 現況報告 （宮古商業高校校長 高橋正浩、宮古工業高校校長 小原貴人）

- ・宮古商業高校校長より入学案内をもとに以下について説明があった。
平成30年度の入学者133名（定員160名）、進路状況、部活動の特色（ヨット・レスリング）、販売実習宮商デパートの内容

- ・宮古工業高校校長より学校案内をもとに以下について説明があった。

各学科	学科の特色	3学年までの人数
機械科	津波模型の制作	72名（定員120名）
電気電子科	電気工事士の資格取得	51名（定員120名）
建築設備科	建物の外側を作る建築と内側（空調など）の設備について学ぶ	52名（定員120名）

進路状況、部活動（団体競技において人数減少）の現状

6 協議（議長 宮古商業高校校長 高橋正浩）

- (1) 宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会設置運営要綱について
（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

・資料No.1 3～4ページを読みあげて提案。資料の通り承認。

- (2) 宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会の組織について
（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

・資料No.2 5ページを読みあげて提案。資料の通り承認。

・（佐藤委員）宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会の委員に「宮古第一中学校長」と記載していたが、学校名称は「第一中学校長」に訂正。

- (3) 検討委員会等に関するスケジュールについて（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

・資料No.3 6ページを読みあげて提案。資料の通り承認。

- (4) 検討事項について（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

・資料No.4 7ページを読みあげて提案。資料の通り承認。

- ・（伊藤晃二委員）統合により、人員の確保が必要であると思われるが、前年度や該当年度の教職員の加配について配慮があるのか。
- ・（高校改革課長）県全体の枠組みの中で教員配置の検討・調整を行った上で、各校の教員定数を決定していることから、各校への加配については、県全体のバランスを考慮して行うものと考えられるが、今回の意見を踏まえて所轄課に要請していきたい。

- (5) その他（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

・資料No.5 8ページを読み上げ、平成28年11月～平成30年2月までに計6回行われたワーキンググループについて説明があった。

7 質疑応答

- ・（伊藤聡委員）校舎制の前例が岩手であるか。

<回答>（宮商副校長）岩手ではない。

<回答>（高校改革課長）全国では数例ある。校舎間を移動するためのバスを活用するなどの工夫をしている。

- ・（畑山委員）ワーキンググループで話されたメリットと課題は何であるか。

<回答>（宮商副校長）団体の部活動では人数の確保ができる。教育課程については今後、学科改編後のカリキュラムに特色を出せるよう検討していきたいと考えている。校舎間の移動や学校行事については課題がある。

- ・（伊藤聡委員）校舎が一つになることはあるのか。

<回答>（高校改革課長）それぞれの施設・設備を生かすために校舎制による統合を検討するということであり、後期計画でさらに統合が進む場合には校舎を一つにすることもあられるかもしれないが、少なくとも前期計画内においてはそれぞれの校舎を有効活用するという方向である。

- ・（志賀委員）統合する意義（目的）は何か。
＜回答＞（高校改革課長）生徒数が減少していく中で、一定の学校規模を維持した上で、募集定員を確保し、教育環境を整えていきたいということである。なお、宮古工業高校では震災後に新しく整えられた設備もあるのでそれらも有効活用したい。

※午後3時50分終了